

第2回 池田市地域分権検討会議

(議 事 録)

日 時：平成28年8月22日（月）13：30～15：40

場 所：池田市役所6階 第3会議室

出席者：＜各委員＞加賀・白水・橋口・初谷（敬称略・五十音順）

＜事務局＞松浦・野村・北村

1. 開会

出席者報告、傍聴者数報告（なし）

2. 議題

①地域分権制度の成果について

＜事務局＞

【配布資料説明】

＜委 員＞

・今まで地域分権を進めてこられた方々の意見は、全体的に肯定的な方が多いなところ。全体的には積極的な意見だったかと思います。

＜委 員＞

・各地域ごとに、うまくいっている部分はもちろんなんですが、課題も色々ということで、もちろん制度全体を最後は検証しなければならないんですが、丁寧に地域のいろんな実状なんかを踏まえた上で考えていかなければならないと改めて思いました。

＜委 員＞

・ハード事業というものは、地域コミュニティの提案から、市にバトンタッチされているのかどうか。最初にハードを作ったけど、その後の運営というのがだんだん地域ではしんどくなってきているところがあって、これを何とか市のほうでも面倒見てもらえませんかコミュニティから出てきてたりするんですが、今後の課題として大きなところであらうかと思います。

＜委 員＞

・例えば、防犯カメラは、池田市としては市の設置でポーンと台数を多めにというよりは、警察との協議の中で年間30台くらいの規模で、あとは地域の要望があれば、地域分権制度を使ってやってくださいという考え方。それは非常に低予算だけれども、地域のニーズに応じたやり方ができているので、まさに評価するべきところじゃないかと思います。

<委員>

- ・ハードの設置というのは、評価するときには2つの論点があると思います。一つは、市の視点から零れ落ちてしまう枝葉の部分に光をあてるということ。住民の方が本当に必要かどうかということ、そういうところが評価軸の一つだと思います。もう一つは、予算の削減に繋がるものかということで、そういうところに繋がっていると、それが積極的に評価できるという議論にもっていけるところかなと思います。

<委員>

- ・地域ごとにハードとソフトの比率に差があります。例えば、ほそごう(細河)はハード比率が8.5%しかないにもかかわらず、神田でしたら80.0%、石橋南は82.3%というように、ハード比率だけ見てもこれだけの大きな差が出てくる。それが地域のニーズだったとして、地域の中の運営者側だけのニーズなのか、地域全体のニーズを反映しているのか、そこも評価の軸になってくるのかなと思う。

<事務局>

- ・例えば、ほそごう(細河)は、ハードというよりは自分たちが自ら動いて街づくりを行っていきにあたって、各種ソフト事業をかなり積極的に展開していただいているという印象がある。

<委員>

- ・会長さんの意見を見ると、経常経費が8割とかになってきて、本来やりたいハード事業ができず、3年間積み立てているという意見もあった。地域の特性でそういう割合になっているから良いとするのか、むしろソフト事業の必要経費が徐々にたまってきてハードができなくなっているということなのか。そのあたりを分析することも必要ですね。

<委員>

- ・地域分権制度は、標準的なサービスを住民に提示して、上乘せ部分について選択させるようにもっていくべきだと。ただ、その標準サービスが、防犯カメラ一つとっても、年度ごとに動いていく。標準的なサービスや、何が上乘せかをどういう形で示しているかということが、ぜひ確認をしないといけないと思います。

<委員>

- ・市ができることと、コミュニティができることとのやりとりのところに、住民がいるのかなと気になるところがある。また、コミュニティがやったことの評価を出すときに、市ができることと、コミュニティができることを事前に協議した結果こうなりましたという形での見方がされているのかというところが、住民に対してコミュニティのやってきたことが、いかにコミュニティの方々の主体的な提案であり、住民のニーズを反映しており、そしてその効果というものが地域の優先度の高いものだということを伝えるうえで、重要なプロセスだと思います。

<委員>

- ・本来は申請前の事前段階で、「標準はこれだ。上乘せを希望するような場合は検討を。」

といったような説明があつて、それが住民公開の場で、コミ協の役員がそれを住民から聴取するという場がないと駄目ですね。役員でない人たち、協議会の人ではない住民の人たちの声が吸い上げられているかというところが発展途上というところですね。

②市民意識調査結果について

<事務局>

【配布資料説明】

<委員>

- ・アンケートの内容というのが住民の方の声を反映しているところで、認知度に関すること、PRが足りないということなんでしょうけど、PRすることは大事ですけども、PRをしてそれで解決するのか、住民の方に認知度を上げることによって地域分権の問題は解決するのかということも含めて考えないといけない。

<委員>

- ・市の広報紙は、ご高齢の方などは結構見られてますが、逆に20代・30代の方はほとんど見ていない、市のホームページも何か用事がないと見ないなど、そもそも認知度をあげるというのは非常に難しい。認知度が4割程度ですら、私の直感的な印象から言うと非常に高いんじゃないかと。地域のコミュニティ紙も、それぞれの市民の方の関心がないと、まずポストに入っているも見ない。そこをどう考えていくかですね。

<委員>

- ・コミュニティの運営をされてる方は情報発信していると思っている。なぜなら広報紙を出しているから。けども住民側からするとPR不足だとなってしまう。その認識の乖離というのは、広報事業に対するお互いの評価が違うからじゃないかと。元々のところが認知度に対するコミュニティの会長さんと住民の方との認識の根深い溝があつて、そのところが第三者から見ると不幸な乖離を生んでいるような気がするところです。どっちも一生懸命なのに、交わらない部分を感じる。

<委員>

- ・評価の声というところがありまして、例えば、住民の意見が反映されやすくなった。これはかなり地域分権の趣旨にのっている話だと思います。それからスクールゾーンの歩道をグリーンに塗ってあるのは良かったというのは、全体から見るとこぼれてしまうようなニッチなニーズに対して、それに光を当てていくんだという地域分権の趣旨に合ってくる。そこを評価している声だといえる。それと自治会がある地域、活発な地域というのは、住民の声をあげることができるが、自治会に入っていない人はそういう声を上げることができないので、そういうときに地域分権があることによって、住民にとって地に足のついた提案ができるという声もあったと思います。それはこの地域分権の趣旨の中に大きく含まれると思います。

<委員>

- ・池田市の場合は、全国の他の自治体の地域分権の仕組みと、わりに似てるように思いま

すが、参画の部分にくっきりと予算提案権というものを打ち出したところが池田市の一番優れているところだと思います。この仕組みをやることで市民が市政というものの事業の決まり方みたいなものに関わっていくことによって、意識が高まっているということが一点だし、二点目は、決まったことを一緒にやることによって、本当に地域のためのやり方、面白いやり方というものがあみ出されるのか。最後はそれを通じて人のつながり、組織同士のつながりが増えてきているのかなと、そういう形で見えていく感じかと思いました。

<委員>

- ・池田市の特徴として自治会町内会加入率が低いですね。4割を切ってる状況。都市自治体の典型というものもあると思うんですが、こういう状況なんで、池田市もこの仕組みがなくなったときにどうなるか、どういうふうに声を吸い上げるのかという、再確認が重要だと思います。

<委員>

- ・小学校区というのが必ずしも1つじゃなくて、町内会等でそれぞれ独立していて、小学校区でまとめられても一体化ではないんだという意見もあるわけですね。そのつながりができているかというのも評価軸に入ってくるし、それができているところもできていないところもあるということが、問題として出てくる場所です。逆に地域分権のメリットの中で、そうした小学校区の中のいろんな小コミュニティを含めた、つなげた様な提案ができるということが言えれば、それはそれで成果として積極的に言っていると思います。そこも一つ評価軸としてあるのかなと思っています。

<委員>

- ・全国に先駆けて池田市はやったという自負と成果というものを非常に心に持っておられるなと思っています。そうすると、この見直しを運用改善みたいなレベルで終わりましたではちょっともったいない。分権改革の旗手としての池田市というものを今後進める上で、引き続きそのように標榜できるかどうか。そうすると目指すところは高く置いてそこへ近づくためには、せめて次ここまでという示し方。とてもそれは無理ということで、逆に皆さんの支持を失うものであれば、ここらへんでやめた方が。いま、政策選択の枝が分かれてきている。本気でどっちにいくか、その選択を促されているのだと思います。

<委員>

- ・今、世の中は全部短期間、2年・3年でと。やっところである程度人ができてきて、次にいけるかどうかというところ。この10年間がどうであったのか精査した上で、続けるのがありきっていうのは問題で、続けないということも含め、どういう形での進め方がいいのかということを考える必要があるのかなと思います。そうするとやはり、あるべき姿というものと、今はそのあるべき姿に対してどうかと。ただそのあるべき姿というものも稜線が変わってくると思う。10年前のあるべき姿と今のあるべき姿は違うと思うし、また地域によっても違ってくると思います。そうしたらあるべき姿を考えながら

やってきたのかと。それに向けてどれだけの達成度でやってこられたかということ踏まえた上で、この制度を考えていくということも一つかなと思います。

<委員>

- ・地域分権のスタートの理念に立ち返ると、地域分権始まりますというような、最初の条例に照らして、市民の身近な地域社会、コミュニティとして、自主的にまちづくりを行うことを目指すものであると、ここですよ、理想というのは。これに本当に向かうためには、こうあるべきだという議論をして、提案して提示するというのが一番手堅い道というかステップかなと思います。

<委員>

- ・理念を地域政府、完全自治体みたいな形、決定と協働の両方セット版で捉えていますけど、それも1つの理想像だけでも、決定はもうやらない、協働だけで洗練された組織体を作っていくというような選択肢のイメージもありうると思います。それに照らして今どうなのか。決定は行政に委ねて、地域は決定まではしない、提案レベルに絞っておく。いろんな実施のやり易いやり方を決めて、することを地域で考えるという選択肢も一方にはありうる。いずれにしてもどこまでやるのかの理想像みたいなもの、それをちょっと出さないと評価しようがないかなと思います。

<委員>

- ・市とコミュニティの関係を見直すということですね。予算提案権の関係性だけを議論するのではなくて、そこも含めてもう1回考え直した方が、このいろんな意見に対して解決案が建設的に出てくるということがあるかもしれない。

<委員>

- ・池田市は池田市のモデルですけども、池田市が10年前から始めて、それ以降いろんな自治体が、総務省は地域運営組織という言い方しているんですけども、そういういろんなモデルができています。平成25年から27年まで検討会を設け、報告書みたいなものが出ているんですけども、その中で地域の自治会町内会、あるいは小学校ごとのコミュニティ協議会の機能を、協議機能と実行機能に分けて、協議のほうは地域の課題なんかを決定して、地域のプランニングみたいなものを作って、意思決定とか協議をしていく。それに基づいて実施部門は、NPOを作って配食サービスとか、実際に行政と協働しあうとか、そういうふうな機能があつて。それをその協議も実行もやってしまう完全なものに近いのか、いやあるいは実施部門だけでそれをやるのか、いろんな類型化ができてますんで、そんなのを紹介しながらやっていければ。

<委員>

- ・税金の使途のところに出て来ている感想も、市としてこういうことを目指してやっているんだということが明確に伝わってないためにこういう反応が出てきているかなと思います。もともとコミュニティ協議会というのは選挙で選ばれているわけでもなんでもなし。条例ではもっときちんと決めてます、とおっしゃるかもしれませんが、規則とかその選

ばれたコミュニティ協議会にどの程度一定の要件みたいなものをきちっとかませて認知するかというところが、池田市の後を追いかけて色々各地で進んでいる仕組みから比べると、ゆるい状態のままで今に至っている。公選職ではないので厳密には代表性はないにしても、その地域唯一の団体で、そこが代表なんだということを、どこまで市のほうも周知しているか。逆にそれが不十分だったんだという感じを持ちました。

<委員>

- ・ 用途を決めるという一つの部分と、それが使われてるといふ部分が乖離している。そこがこういうふう意見が出ているところなのかと思います。その地域の代表なり、こういう使い方をしますがいいですかというところを地域に直接投票してもらうのか、そこまではないでできるような仕組みは、どのような形があるのかというところですね。

<委員>

- ・ 理想の話でいえば、地域分権の理想というのは、地域の人自主的に中立的に地域のために活動するのが理想だと思うんですね。問題は、今一部の自主的・自立的な人達の活動というのは、住民みんなの支持のところではつながっていないということだと思います。自主的に提案した人達の提案に対しての提案を担保するとか、評価するとか、住民を巻き込むとか、それが地域の役に立っているというところのつながりがないから、このところをどうにかするシステムを何か作らないと。その効果のところは、自分も参加することによって、自分達がこうしたらいいとか自主的に関わっていくようになっていけば、これがいわゆる地域分権の理想だと一つの教育効果にもなる。日本は、地域分権に進むような教育というのがなかなかないので、スウェーデンのようにコミュニティの人が提案するという形にもっていくのが、すぐには難しいと思うので、理想としてそういう教育を入れるとして、この状況というのは構造化してしまうと、この点は大きな問題として、見直さなきゃいけないのかなと思います。

3. 閉会